

読んで考える

公立中高一貫校 合格力講座

資料問題編⑦

災害からくらしを守るためには



執筆・早稲田進学会（大島茂） イラスト・大野直人（エヌノート）

挑戦!

福岡県共通
2020年度 適性検査から抜粋
(一部改変)

たけしさんの学級では、総合的な学習の時間に「私たちのくらしと防災」というテーマで学習をしています。

問題 1

まず、たけしさんたちは、まちに住んでいる人に対してのアンケート【資料1】やその結果【資料2】からまちの人たちが災害に備えて、どのような用意をしているかについて話し合いました。次は、そのときの話し合いの一部です。

たけし：「【資料1】の1と2では、非常用飲料水についてたずねているね。」

ゆうこ：「この前読んだ防災ハンドブックには、非常用飲料水は『少なくとも3日分、できれば1週間分程度を用意しましょう。』とかいてあったね。【資料2】をみると、『災害対策アンケート』に回答した人の80％以上が3日以上を用意していることが分かるね。」

たけし：「確かに【資料2】で3日以上を用意している人の割合をたすと80％以上になるね。でも【資料1】と【資料2】をもとに、80％以上という割合が何の割合を表しているかを考えると、そうとは言えないと思うよ。それはね、」

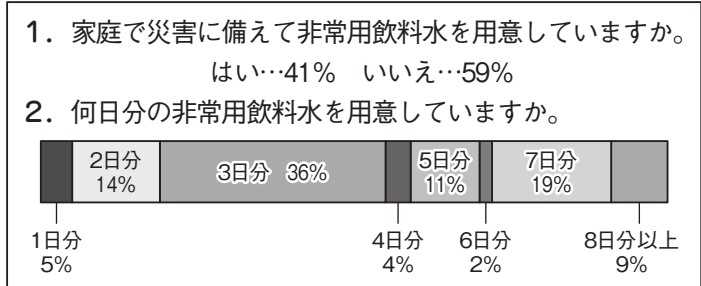
【資料1】災害対策アンケート

1. 家庭で災害に備えて非常用飲料水を用意していますか。
(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合は2へ、「いいえ」の場合は3へ

2. 何日分の非常用飲料水を用意していますか。
(1日分・2日分・3日分・4日分・5日分・6日分・7日分・8日以上)

【資料2】アンケート結果



たけしさんは、発言の中のそれはね、つづけてで、80％以上という割合が何の割合を表しているかを明らかにして、そうとは言えない理由を説明しています。あなたがたけしさんだったら、どのよ

うに説明しますか。100字程度でかきましょう。

問題 2

地震から身を守るために大切なことについて調べているたけしさんの班では、消防士の方から話を聞きました。【資料3】は、自分たちが調べて分かったことと消防士の方から聞いて分かったことをまとめたものです。

【資料3】地震から身を守るために大切なこと

	自分たちが調べて分かったこと	消防士の方から話を聞いて分かったこと
事前	・家具がたおれないように、家具を固定しておく。 ・非常用持ち出しぶくろの中を確かめておく。	・地域のひと協力して防災マップをつくる。 ・地域の防災訓練に参加する。
地震発生時	・教室では、机の下にもぐり、机の脚をしっかりと持つ。 ・外では、かけやブロックべいからはなれる。	・高齢者や体の不自由な方の避難を手助けする。 ・避難所で自分にできるお手伝いをする。

たけしさんの班は、これまで調べてきて分かったことをもとに、全体発表会に向けて、防災のために大切にしていきたいことについて、話し合っています。次は、そのときの話し合いの一部です。

ゆうこ：「自分たちが調べて分かったことのほかにも、消防士の方の話を聞いて、新しく大切なことが分かったね。」

たけし：「消防士の方から話を聞いて分かった4つのことには、共通して言えることがあるよね。そのことを中心に発表しようよ。」

ゆうこ：「いいね。そういえば、防災の学習の最初に、先生が紹介してくれた去年の地域の防災訓練に参加した小学生の作文【資料4】があったね。そのことを発表に入れられないかな。」

たけし：「その作文の中に自治会長さんの『防災はあいさつなどから始めることが大事』という言葉があったけど、このことと防災はどのような関係があるのかな。」

先生：「消防士の方の話とつなげて考えると見えてくると思うよ。」

【資料4】去年の地域の防災訓練に参加した小学生の作文の一部

訓練には、まちの人や自治会長さん、消防団の方などが集まっています。大人たちといっしょに消火活動やけが人を運ぶ手伝いをしました。訓練では日ごろ話したことのない近所の方とたくさん話しました。訓練の最後に自治会長さんが「防災はあいさつなどから始めることが大事」と言われたことが心に残っています。今では、近所の方とあいさつをしたり、話をしたりするように心がけています。

この後、たけしさんは、全体発表会に向けて防災のために大切にしていきたいことについて発表原稿をかきました。その中で、消防士の方の話に共通して言えることを明らかにしています。そして、その「明らかにしたこと」と「あいさつなどから始めることの大事さ」を結びつけています。あなたがたけしさんだったら、どのような発表原稿をつくりませんか。130字程度でかきましょう。

まずと

解いてみよう!

解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう!

かい

せつ

解 説

問題 1

割合（％）を見るとき気をつけるべきことは、その数値自体はあるもとなるものの中で占める割合であって、ものの量を表しているわけではないということです。例えば、エネルギー源として化石燃料を使う場合を考えます。CO₂を一番排出する石炭の割合が50年前には80％であったものが現在50％に減少したとしても、温暖化対策が進んだとは一概には言えません。化石燃料全体の量、つまり割合のもととなる量が50年前は100万トン、現在は200万トンのように2倍に増えていれば、石炭は100万トンの80％で80万トンだったが、現在200万トンの50％で100万トンとなり、割合は減っても使用する石炭の量はむしろ増加していることになります。このように、割合（％）を考える場合、「何の何％なのか」と常にもとなるものに注意する必要があります。

問題 2

たけしさんは、消防士の方が話した4つのことに共通して言えることを中心に発表しようと言っています。その共通して言えることを押さえながら、防災を「あいさつなどから始めることの大事さ」と結びつけてまとめていくことになります。地域のひと協力してマップ作りや防災訓練をし、高齢者の手助けや避難所での手伝いをすることは、地域のひととのつながりが大切になってきますので、日頃からあいさつを通して身近な関係を作っておくといいですね。

かい

とう

れい

解 答 例

問題 1 この80％以上というのは、アンケートで非常用飲料水を用意していると回答した人、つまり全体の41％の中での割合だから、3日以上用意している人は、全体の約33％しかいないことになるよ。

問題 2 消防士の方の話から、地域の人どうしの助け合いや結びつきが大切だということがわかります。そのためには、日頃からおたがいの顔やどのような人なのかを知り、つながりを作っておくとうまくいきます。そのために、まずあいさつから始めることは大事なことでと思います。

毎週日曜に掲載します。